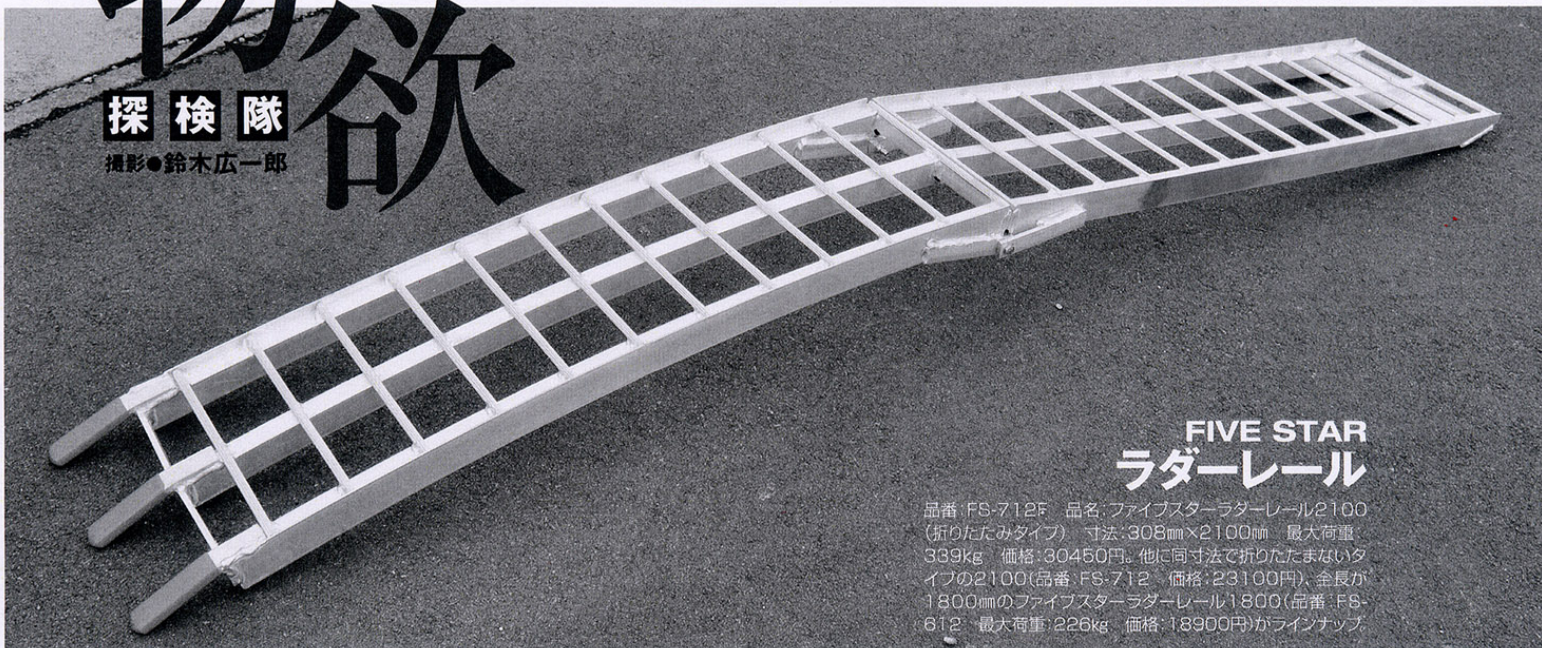


# 物欲

探検隊  
撮影●鈴木広一郎

バイク乗りにとって「持てたらいいなー」と思うのが、  
トランスポーターと、それに車体を載せるための板。  
選ぶとしたら、やっぱりしっかりしたものを、だよな。

問:ヤザワ ☎03-5763-0281  
http://www.yazawainc.com



## FIVE STAR ラダーレール

品番:FS-712F 品名:ファイブスターラダーレール2100  
(折りたたみタイプ) 寸法:308mm×2100mm 最大荷重:  
339kg 価格:30450円。他に同寸法で折りたたまないタ  
イプの2100(品番:FS-712 価格:23100円)、全長が  
1800mmのファイブスターラダーレール1800(品番:FS-  
612 最大荷重:226kg 価格:18900円)がラインナップ

### 「擦る心配」を大幅に低減した頑丈なレール!

バイクをトランスポーターに載せて移動する場合、そのクルマがパワーゲート付きのトラックでない限り、必ずと言っていいほど使うことになるのが道板=ラダーレール。特にサーキット等クローズドコースに良く走りに行く人にとっては、なくてはならないアイテムといえるだろう。バイクの車種にもよるが、結構な重さの車体を支える板なだけに、しっかりとした作りのものを選びたい。

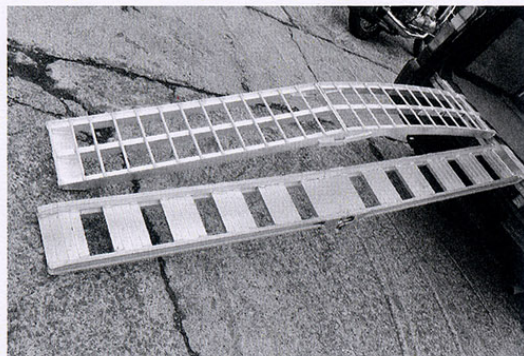
その使い勝手という点で長い間高い評価を得ているのが、アメリカ・ファイブスター社の「ラダーレール」だ。ピックアップトラックにATVやバギー、モトクロス等を積んで走りに

出かける事が当たり前のレジャーとなっている当地で生まれたからこそ、と納得できる作り込みがなされている。まず目に付くのが、湾曲したレールだろう。これはトランポの荷台に掛けた時、荷台に近い側をなるべく水平にしようとしたもの。板と荷台との角度がキツいと、載せる車両(特にATV)の底が板と荷台の境目の角に擦ってしまう。これを避けるためなのだが、バイクを載せる時も役立つ。例えば、マフラーを4in1の集合に変更した車両やホイールが小径化した車両はグランドクリアランスが少ない。このためフラットで短めの板に載せたら底を擦ってしまう場合も多々あるのだ

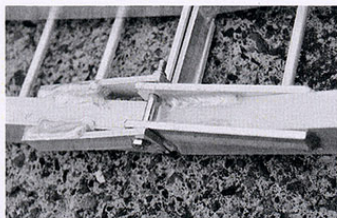
が、湾曲していると擦る可能性がかなり低いという訳なのだ。

何かと役立つ形状のため、同じような形状の他社製廉価版も多く出回っている。ただしファイブスター社のレールが違うのは、その最大荷重の多さ。全長2100mm版で339kgだから、ワンボックス等普通車のトランポに載せられるバイクのほとんどをカバーしているといっている。

人が乗っただけでもしなる板を、ラダーレールとして使うのは言語道断。さらに、余計な作業や心配が必要ないしっかりとした板なら、本当に重宝する。いい道具があると趣味も楽しくなるといえるのは、事実なのだ。

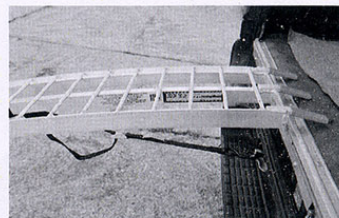


フラットな形状の道板と比べてみると、明らかに荷台付近の角度が違う。フラット板の場合、マフラーが擦りそうになった時は板を持ち上げるか、もしくは事前にもう1枚板を上置く(角度を緩やかにする)等する必要があるが、ファイブスター社製はその必要がまずない。



板の裏側部分。いかにも丈夫そうに溶接されており、折り畳み部分の補強もすごい。道板を購入の際は耐荷重も確認しよう。

載せたバイクが高い位置になるが、バイクが荷台に載る前の最後の一押しはかえって楽になる。



レール脱落防止のタイダウンも付属。レールの背骨部分に通し、トランポ側のフックにかけベルトを張っておく。万レールが後ろ向きに引っ張られても板が落ちる心配がないという訳なのだ。特にバイクのエンジンをかけ駆動させて載せる場合楽く安心。